

令和元年 10月 11日

令和元年度 大学生・海外インターンシップ報告書
信州大学 経法学部 応用経済学科 2年

実習期間	2019年9月8日(日)～9月15日(日) 8日間
実習企業	デリカ株式会社
実習地	所在地 タイ チョンブリー県

1. 実習目的 今後、海外働くためにどんなスキルが必要なのかを知る。	Chapter1 purpose
2. 実習先概要 株式会社デリカ HP： http://www.delica-kk.co.jp/ 事業内容 農業機械を中心に、幅広い分野に多様な製品を提供する。 応対頂いた方々 ・戸田裕之 様	Chapter2 summary of company
3. 実習日程 ・9月10日 サプライヤー訪問、現地工場でガイダンス 担当 戸田様 感想 企業の生産拠点であるチョンブリー工場を見学した。会社概要等のご説明も頂いた。タイ含め海外でビジネスをすることの利点と欠点を学んだ。 ・9月11日 トラクターメーカー訪問 担当 戸田様 感想 日系のトラクターメーカーを訪問した。タイの王族企業との合同出資により設立した現地法人を設立したことによって、優秀なタイ人を雇用することに成功したという話が印象的だった。 ・9月12日 タイ→マレーシアへ移動 ・9月13日 マレーシア プトラ大学訪問 担当 戸田様 感想 実習先企業とプトラ大学での共同研究に一環で開発している製品の試験を見学した。日本の大学と企業の共同研究と似た活動だった。 ・9月14日 バンコク市内視察 感想 タイの首都バンコクで観光。地下鉄など先進国と変わらないような技術・サービスレベルを実感した。	Chapter3 schedule
4. 実習内容 <u>本社（松本市）での事前研修</u> タイ行く前に本社にて、会社概要の説明や工場見学等を行った。 <u>タイでの会社見学</u> なぜタイに進出したのか、これまでの成績、東南アジアの現状についての説明が中心だった。東南アジアの中でも発展度合いや、政治的背景が異なり、タイはすでに発展しすぎているというのが印象的だった。 <u>サプライチェーンの見学</u> 供給先と供給元の企業を見学。最終的に供給先に対して、安定した「品質」「数量」「納期」で納品できるように、供給元を選び、製品作りを行う必要がある。	Chapter4 laboratory

大学との共同研究

マレーシア・ブトラ大学と企業の共同研究の中で、製品開発をしていた。学術的な研究がリアルな企業のニーズや技術と融合して新たな価値を生んでいく過程を見ることができた。

5. 実習成果

Chapter5 result

1. 体験を通しての学び

工場見学について

長野県内の本社工場とタイの工場、取引先の工場等を見学した。

これまでの大学生活では経済系の学部として、あまり工学系の学問に触れることはなかった。さらに、工場見学等は全く経験したことがなく、今まで触れていない分野への興味が芽生えるきっかけとなった。タイの工場で驚いたのは、工場内のIoT化が進んでいたことである。人件費が低いイメージのタイでも経済成長に伴って、年々賃金が上がり続けている。最近では機械化を導入するコストのほうが人件費よりも安くなり始めている。

会社内実習について

会社内では企業情報や海外で働くこと等について多くの学びがあった。外国人を雇うときに重要なことは、国民性や、宗教、言語の違いを理解し、尊重することである。タイは比較的それらが日本に似ており、日本企業は進出しやすい。だが、近年成長が著しいインドなどでは、日本と文化が全く異なり、それを理解することに多大な時間と労力が必要である。

社外研修について

社外では、サプライチェーンの日系企業を訪問した。供給元を選ぶ時に重要なのが、コスト、品質、納期の3項目である。特に、納期がとても重要で、一つの部品が届かないだけで自社工場の生産ラインが止まるだけではなく、供給先のビジネスにも悪影響を与えてしまう。「チェーン」の流れを壊さずに、できるだけ高品質な商品を低コストで安定的に生産することが取引先からの信用を生む唯一の方法である。

2. 目的に対しての学び

「今後、海外働くためにどんなスキルが必要なのかを知る」という目的で本インターンに参加した。1週間様々な学びの場を用意していただいた中で、私が最も必要だと感じたスキルは、「順応性」であると思う。海外で働くにはその国にいち早く順応しなければならない。それはビジネスの場だけではなく、生活する上での文化等も含まれる。順応したうえで現地の社員や取引先とよい良い関係性を結んでいく必要がある。

3. 自分の成長した点について

海外で働くこと、学ぶことへの意欲が高まった。そのために日本国内で準備するべきスキルやインターンの枠組みに関しても考える機会ができた。

6. 今後の課題

Chapter6 problem

今後は継続的に英語力を向上させながら、自分が海外でできること、海外でしかできないこと、世界にインパクトを与えたいことは何なのか考えていく必要がある。

今回は事前に何を学べるか、具体的に仮説をたてていなかったせいで、貴重な機会を適切に学びに変えることができなかった。

学生だからこそできることや、学べることを自分で考え、アウトプットできる能力を身に付けたい。

7.海外インターンシップに行こうか迷っている学生に一言
Chapter7 Advice
行かない理由を探すより、とりあえず行ってみれば何か感じることはあると思います。

8. 謝辞
Chapter8 Address of gratitude
デリカ株式会社の皆様、今回はお忙しい中このような機会を提供していただき、ありがとうございました。長野県内の企業で海外に進出し、それを学生の学びに昇華させるという考え方がとてもかっこいいと感じました。
今回のインターンで学んだことをこれからの学校生活、社会生活で活かしていきたいと考えています。そして、いつか私が学生にこのような機会を与えられる人間になりたいと思います。
本当にありがとうございました。

実習の様子

